ここから、はじまる。

豊岡演劇祭2022

Toyooka Theater Festival

9/15(木)-25(日)

岩下徹×梅津和時　カミーユ・パンザ／エルザッツ　劇団あはひ　山海塾　青年団
多田淳之介　ヌトミック　ノイマルクト劇場＋市原佐都子／Q　Platz市民演劇プロジェクト
開催エリア：豊岡市、養父市、香美町

豊岡演劇祭2022フリンジ実施によせて

3回目の開催を迎える豊岡演劇祭、昨年の中止を乗り越えるかのようにフリンジ公募に多くのアーティストが手を挙げて下さいました。応募数、採択数も過去最高を記録しています。

今年はフリンジの仕組みを見直し、【Selection】【Showcase】【Street】の三つの部門を設置しました。

Selectionはこれまでの豊岡演劇祭フリンジを特徴付ける、演劇祭コーディネーターと支援金によるサポートが付く象徴的な部門です。アーティストが創作する作品を地域の取り組みと結びつける、あるいはよりサイトスペシフィックな作品作りを希望するアーティストと協働して、豊岡演劇祭だからこそ出来る公演を目指します。

Showcaseは複数のアーティストが一つの会場、芸術文化観光専門職大学の小劇場で作品を発表する部門です。会場の形式や機構に制限がある代わりに、テクニカルサポートや宿泊のサポートを行い、アーティストがより低リスクで作品発表を行える場として設置された部門です。この世界的なパンデミックの中、今も多くの公演が中止に追い込まれています。そのリスクは、決して個人が背負い切れるものでも、背負い切るべきものでもありません。より若手、より個人、より大変な思いをしているアーティストにもこの部門を通して豊岡演劇祭に参加して頂ければと思い設置しました。

Streetは文字通り、アーティストが劇場やホールを飛び出し街中で作品を発表する部門です。演劇や舞踊に限らず公募することで、今年は多くの大道芸のアーティストにご参加頂く事となりました。この部門の特徴を表すのは「気軽さ」です。劇場等に足を運ばなくても通りすがりに多くの作品に触れることができ、街の風景が変わる瞬間に出会えるはずで、それもフェスティバルの役割の一つだと思います。ぜひ地元の皆さんにも楽しんで頂ければと思います。そしてもう一つ、アーティストにとっても気軽にフェスティバルに参加出来る部門として、将来的にも裾野を広げていければと考えています。

豊岡演劇祭2022では演劇祭をまちづくりと連動させ、様々なトライアルを行っています。しかし、まちづくりのためにアーティストが、それぞれの作品があるのではありません。まちづくりのための作品をアーティストに作ってほしいということもありません。我々が目指すのは、この多様な作品が、多様な価値観が、それぞれが存在しうる街を作るということです。多様な作品、多様な価値観が存在するためには、その創造環境を、表現の場を、創り、守らなければなりません。そのためには、その場としてのフェスティバルが地域と、経済と、産業とそれら全てと並走する覚悟を持って臨まなければならないと考えます。ある種の二項対立(例えば経済か文化か)や、過去のフェスティバルの蓄積を乗り越えて、新たな演劇祭としてここに存在することが我々の価値に、ひいては街の価値になるのだと信じています。

最後に、この素晴らしいアーティストの作品をぜひご覧いただければと思います。

この作品とアーティストたちのために、私たちはここにいます。

豊岡演劇祭2022
プロデューサー / コーディネーター
松岡 大貴

豊岡演劇祭2022フリンジ【Selection】ラインナップ

【豊岡市街地エリア】

Mi-Mi-Bi from DANCE BOX ／『未だ見たことのない美しさ ～豊岡ver.～』
一般社団法人毛帽子事務所 ／『豊岡物語プロジェクト2022』
中川麻央 ／『Magnetic Contradictions』
しんしんし ／『しんのいし』
はなもとゆか×マツキモエ ／『LOTUS』
半畳の宇宙 ／ ひとり芝居『よだかの星』『走れメロス』

【日高・江原エリア】

半畳の宇宙 ／ ひとり芝居『よだかの星』『走れメロス』
松本成弘・越後正志 ／『落ちて水になる』
NPO法人 あしおとでつながろうプロジェクト ／『To know あなたが何かを知るために』
はらだまほ ／ ベイビーシアター『nido』
渡邊のり子 ／『とても小さな舞台美術をつくる』
安住の地 ／『丁寧なくらし / 犬が死んだ、僕は父親になることにした』
インプロとジェンダー探究プロジェクト ／『ザ・ベクデルテスト』
ルサンチカ ／『GOOD WAR』

【日高・神鍋エリア】

劇団 短距離男道ミサイル ／『BNN』
Stilllive（スティルライブ）／『Stilllive Village：生のアリーナ』
山田企画 ／『滝ヶ原芸術祭ツアー2022 in 豊岡』
武本拓也 ／『ドキュメント・ヒア』

【出石エリア】

坂口修一 ／ リーディング公演『お父さんのバックドロップ』
PUYEY ／『today in 出石』
ポシロ舎 ／『物の間違った使い方』（竹野エリアでも開催）

【城崎エリア】

ハイドロブラスト ／『最後の芸者たち』
半畳の宇宙 ／ ひとり芝居『よだかの星』『走れメロス』
武本拓也 ／『いもりを見た』

【竹野エリア】

ポシロ舎 ／『物の間違った使い方』
野口竜平 ／『蛸みこし研究所・竹野浜支部』
日坂春奈 ／『そうめんによる上演』

【但東エリア】

HANAICHI ／『おしえて但東！』

Mi-Mi-Bi from DANCE BOX ／『未だ見たことのない美しさ ～豊岡ver.～』

写真：岩本順

【日時】

9/22(木) 18:00
9/23(金・祝) 14:00

【会場】

豊岡市民プラザ(豊岡)

※9/22終演後、アフタートークあり（手話通訳付）
※9/23開演前 13:00から、見えない人のための鑑賞ガイドあり（要申込）

作品紹介

灯のない海、音のない雑踏、樹齢1000年の木。生まれる前からずっとしてきた旅…。
神戸・新長田から豊岡へ。今回は「旅」をテーマにダンス作品を展開します。演出は、義足のダンサー／俳優として国内外で活躍する森田かずよ。振付・出演には、ろう者でサインパフォーマーとして活動する「手の表現者」KAZUKI、音や光・感覚を捉え言葉と身体で紡ぐ視覚障がい者の武内美津子、車イスを身体の一部として駆使し表現と向き合う福角宣弘、語り部であり俳優としても活動する福角幸子、そして踊る手話通訳士の三田宏美とダンサーの内田結花。7名の異なる身体と音楽家・日野浩志郎による音とともに、未だ見たことのない旅へと誘います。

Mi-Mi-Bi from DANCE BOX

盲・ろう者を含む身体に障がいのあるパフォーマー・コンテンポラリーダンスアーティストによる、ミックスエイブルのカンパニー。NPO法人DANCE BOX主催事業「こんにちは、共生社会（ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ）」の一環で実施した2022年2月のArtTheater dB KOBEでの公演を経て、カンパニー活動を開始。それぞれに異なる身体性や感覚、世界の捉え方を観客と共有できる方法を模索し、作品創作を行っている。

一般社団法人毛帽子事務所 ／『豊岡物語プロジェクト2022』

【日時】

9/24(土)
15:00 （Aプログラム）
18:30* （Bプログラム）

9/25(日)
11:00 （Bプログラム）
15:00*（Aプログラム）

*公演後、トーク企画を実施予定

【会場】

豊岡市民プラザ(豊岡)

作品紹介

豊岡の風景や人が映っている写真と思い出話を集め、それらを手がかりに創作した短編戯曲を、リーディング公演『豊岡物語2022』として上演します。
戯曲は昨年、豊岡に在住の方を中心とする11名と劇作家ごまのはえが執筆したもの。出演者には、豊岡在住の方も参加します。戯曲の中で使われる「但馬弁」による表現の豊かさや、豊岡の土地の魅力を、味わい深い作品としてお届けします。

一般社団法人毛帽子事務所

様々な舞台芸術の表現者が集まっている団体。メンバーそれぞれが創作現場で培ってきた表現手法を基に、ワークショップの実施や、舞台公演の企画・製作など、各地の劇場や文化団体と協同して、地域に根ざした活動を続けている。参加者一人一人と向き合い、想像や表現をすることをの喜びや楽しさを分かち合うこと、そして舞台芸術が持っている様々な可能性を通じて、人と人、人と町が結ばれるきっかけとなることを目指す。

中川麻央 ／『Magnetic Contradictions 』

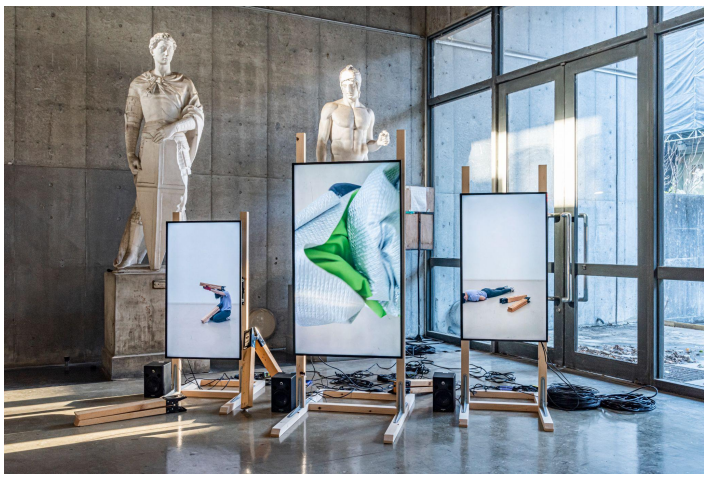


Photo : Kenta Kawagoe ©Global Art Practice, Graduate School of Fine Arts, Tokyo University of the Arts, 2021

【日時】

9/16(金) パフォーマンス17:00
インスタレーション 11:00-19:00
9/17(土) パフォーマンス15:00
インスタレーション 10:00-19:00
9/18(日) パフォーマンス17:00
インスタレーション 10:00-19:00

【会場】

豊岡稽古堂 ロビー(豊岡)

作品紹介

個々が各々に所有する身体。共通しながら異なる身体は、時に個の感覚や記憶のコンテナとなり、物質として確立しながら流動的な面を併せ持つ。また身体という概念は、時代や社会の流れを受けながら複雑に更新されていき、多くの矛盾を含みながら変容していく。
人形浄瑠璃の人形遣いの身体の在り方と物質に移る身体性、社会において目に見えないとされ物質化する身体、パンデミックによる生活の変化から揺れ動く身体の在り方、インターネットの普及により高速に更新される情報と身体の関係性。
Magnetic Contradictionsは、映像インスタレーションとパフォーマンスにより、身体の認識の更新・脱構築・再構築を空間に立ち上がらせ、認識の変化によって変わる身体の変容性を提示する。

中川麻央

身体を表現手段の軸とし、その場が持つ空間や背景にあるストーリー、オブジェクトなど、モノの持つ存在感、空間・物質・身体の関係性、体の動きによって作用する時間感覚の変化などを考慮し、視覚的・感覚的なパフォーマンス作品を制作する。
日本大学芸術学部演劇学科洋舞コース卒業。珍しいキノコ舞踊団、ホナガヨウコ企画でダンサーとして活動後、Amsterdam University of the Arts（AHK）, School for New Dance Development（SNDO）にて振付を学ぶ。東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻修了。

しんしんし ／『しんのいし』

【日時】

9/20(火) 20:00
9/21(水) 20:00
9/22(木) 20:00

【会場】

豊岡稽古堂 ロビー(豊岡)

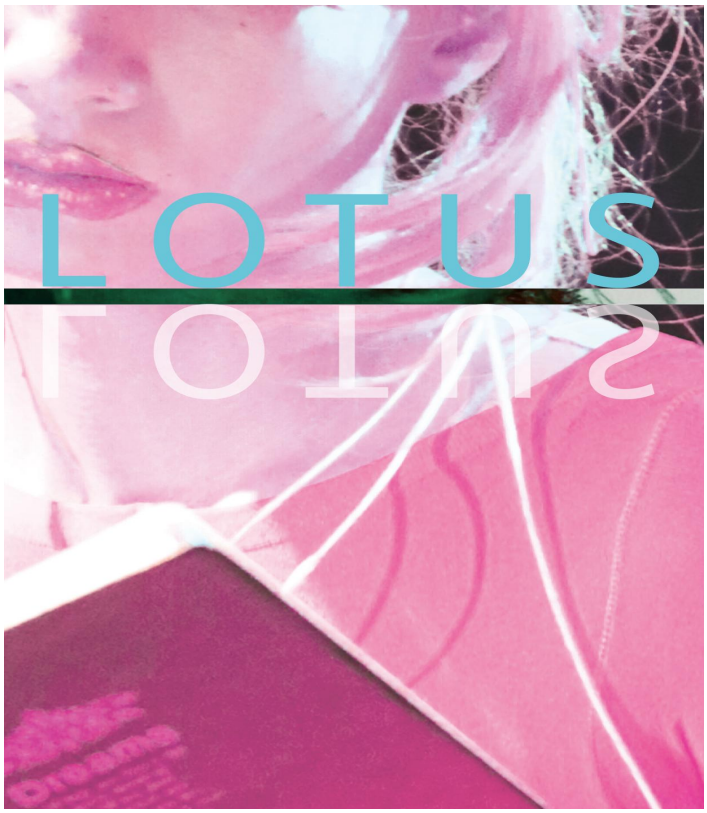
作品紹介

ここ、に広がる静けさ。
輪郭がほどけ、名前をなくした〈わたし〉に邂逅する。
うらっかえしのここからはじまる、いしのつどい。

しんしんし

2022年5月4日始動。踊りを〈わたしたちの存在を照らす術〉と捉え、公共にひらく。
豊岡市出石拠点。

はなもとゆか×マツキモエ ／『LOTUS』



前谷開

【日時】

9/18(日) 18:30

9/19(月・祝) 14:30 / 18:30

【会場】

豊岡稽古堂 3階(豊岡)

作品紹介

「DAISY の宇宙は、丸くて狭くて想像以上に小さく周る 」

コンテンポラリーダンスユニットはなもとゆか×マツキモエによる、ドキュメンタリーポップエレクトリカルフィクションエモーショナルコンテンポラリーダンス公演。京都芸術センターとの共同主催事業として2021年11月に京都で上演した、『DAISY』を豊岡という土地、空間を活かして再構築し、上演する。

はなもとゆか×マツキモエ

2008年京都芸術大学舞台芸術学科同期の二人により結成。確かな身体性と内から放たれる強烈な個性を武器に日々自身と社会との距離を模索。小粋なジョークとともに必死に生きる姿勢をダンスに昇華した作品を多数上演している。コンドルズ振付コンペディション3位、大阪芸術創造館主催のCONNECTVOL.4にて最優秀賞を受賞。令和3年度京都芸術センターCo-program2021 KACセレクション カテゴリーA選出アーティスト。

半畳の宇宙 ／ ひとり芝居『よだかの星』『走れメロス』

【日時】

9/16(金) 18:00 / 19:00

9/17(土) 17:00 / 19:00 / 21:00

9/18(日) 17:00 / 19:00

9/19(月・祝) 16:00 / 20:00

【会場】

9/16(金) 木屋町小路(城崎)

9/17(土)-18(日)デモクラティックスクールTOIRO前(日高・江原)

9/19(月・祝) 小田井縣神社(豊岡)

作品紹介

『よだかの星』(原作:宮沢賢治)と『走れメロス』(原作:太宰治)の一人芝居を上演します。

『よだかの星』は、落語家が扇子を色々な道具に見立て、様々な役柄を演じ分けることをヒントに創作しました。俳優は、扇子を使って鳥の羽ばたきを表現したり、鳥たちから星々にいたるまで、様々な役を演じ分けます。

『走れメロス』は、羊飼いであるメロスが、羊を集めるための笛を持っていたかもしれないと想像して創作しました。俳優が舞台上で、実際に笛を吹きながらメロスを演じます。

どちらのお芝居も生演奏にてお送りします。クラリネット、ピアニカ、パーカッションなどで本編を賑やかに彩ります。大人から子供まで、世代を超えて楽しめる2作品です。

半畳の宇宙

カフェ、居酒屋、BAR、銭湯の浴場、スナック、アパートの一室、廃業した工場など、劇場にとらわれない様々な場所で、文学を演劇に仕立てた作品を上演。俳優の声と体と心を駆使し、お客様の想像力を借りて、ここではないどこかにある世界を立ち上げます。

俳優が立って座れる半畳のスペースがあれば、どんな場所でもそこが劇場に変わる。手足を伸ばせる距離は限られていても想像力は無限に広がる。

松本成弘・越後正志 ／『落ちて水になる』

画：松本成弘

【日時】

9/17(土) 10:00-17:00

9/18(日) 10:00-17:00

※開場時間内の入退場自由

【会場】

友田酒造(日高・江原)

作品紹介

本企画は、友田酒造を会場に美術作品展示を行うものです。構想段階で松本のなかに浮かんだ「川の上から下に向かって流れる様・石が流されるうちに(角が取れて)小さくなる様」を、友田酒造にある物品を使って表現します。
企画にあたり豊岡市江原を訪れ、友田酒造の友田謙二さんからご自身にまつわる昔話を聞きました。スキーが好きで北海道まで滑りに行っていた頃の話や、友田酒造を継ぐまでの話など、様々なお話を聞かせていただきました。リサーチを経て、私達は「友田酒造に今置いてあるモノの集積によって、目には見えない時間や人の記憶の“流れ”を表現する」という作品アイデアに着地しました。

松本成弘

1984年生まれ、京丹波町在住。
2005年よりダンスを始め、舞台芸術に関わる。俳優、ダンサーとして10年間の身体表現を経て、舞台美術、舞台写真として、国内外で活動。2021年「道具行」より美術家　越後正志との共同クリエイションを開始する。

越後正志

1982年生まれ、香川県小豆島在住。2008年からヨーロッパを中心に活動を行う。2013年、瀬戸内国際芸術祭参加をきっかけに拠点を香川県小豆島に移す。以降、日本各地の芸術祭や美術展にも参加する。豊岡演劇祭2020フリンジ参加、豊岡演劇祭2021が中止となった際には後に自主企画として展示を実施した。

NPO法人 あしおとでつながろうプロジェクト ／『To know あなたが何かを知るために』

【日時】

9/17(土) 15:30 ワークショップ1

9/18(日) 10:00 ワークショップ2
13:00 ワークショップ3
15:00 上演
16:10 アフタートーク

【会場】

日高文化体育館(日高・江原)

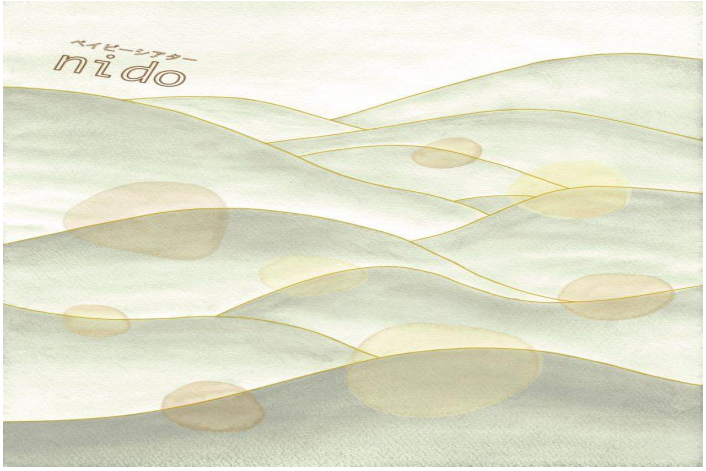
作品紹介

一生懸命見てみよう。相手を知るってどんなこと？
タップダンスと映像を共通言語とするワークショップで心をつなぎ、豊岡の出演者と”あしプロメッセンジャー”で即興演劇作品をつくり上演します。知り合うことのよろこび！共に表現を生み出していく楽しさ！観覧席のあなたもご一緒に、仲間を集める旅に出ませんか？
知らない人と旅をともにするような、多様な人々で創りあうアート体験は、自分を知るヒントが得られる体験となります。一生懸命見る大事さ、相手を知ることの大切さを体感する観客参加型即興演劇作品。

あしおとでつながろうプロジェクト

通称、ASI-PRO(あしプロ)。主体的にアート体験を重ねた特性のある若者たち＝メッセンジャーが案内人となり、アートと福祉の生み出すエネルギーを社会に伝えている。おどるなつこ(タップダンサー・振付家)、塩田久人(クリエイティブディレクター)の深いアートの眼差しのもと、個々の特性を最大限に生かし、誰もが可能性を広げられる共通体験の機会を創出する。

はらだまほ ／ ベイビーシアター『nido』



© FUMI TAKENOUCHI

【日時】

■パフォーマンス

9/21(水) 11:10

9/22(木) 11:10

9/23(金) 11:10 / 13:10

■展示

9/21(水) 13:00-17:00（最終入場16:30）

9/22(木) 13:00-17:00（最終入場16:30）

9/23(金) 14:00-16:00（最終入場15:30）

【会場】

ワークピア日高(日高・江原)

作品紹介

nido? nid? ニド？

よっといしょっと　周りを見渡して

あっちへ　こっちへ　そっちへと

ひょいっとあっちを引っ張って　とんっとこっちを押してみる

とく、とく、とく、と湧き上がる　あったかな　陽だまりのあるところ

ベイビーシアター「nido」は、ちいさな人と、ちいさな人たちとともに生きる大人たちのためのダンス作品です。

上演時以外は舞台美術を展示としても楽しめます。

からだと空間が創るちいさな「nido」、どうぞごゆるりとお楽しみください。

はらだまほ

振付家、パフォーマー。神奈川県出身。言語と身体の関係性を中心に「おどり」について多面的に思考し、動作から「おどり」になる瞬間や身体が踊り出す瞬間にこだわって作品を紡ぐ。2015年より乳児のための舞台芸術に積極的に取り組み、ダリア・アチン・セランダー、アリツィア・ルブザックなど海外の演出家の作品に多数出演。乳幼児親子から大人を対象とした世代別のおどりのワークショップ「からだのことばでおしゃべりしよう」など、ワークショップ活動も精力的に行う。現代舞踊協会正会員。立教大学現代心理学部映像身体学科卒。

渡邊のり子 ／『とても小さな舞台美術をつくる』

「北アルプス国際芸術祭2020-2021」より
photo by Kurita Moe

【日時】

9/17(土) 15:00-22:00
9/18(日) 11:00-22:00
9/19(月・祝) 未定

【会場】

SUVLOG(日高・江原)

＊会場では渡邊のり子の作品も展示

作品紹介

舞台の世界には「舞台美術」という仕事があります。舞台上に世界を作り、上演される演目を一回りも二回りも豊かなものにする、とても大切な役割です。
今回はそんな舞台美術を作るワークショップをやります。舞台となる会場は手のひらに収まるくらいの小さな箱。そこへ様々な素材を詰め込んで、自分だけの美術を作ってもらいます。作るものは、これから観る舞台でも、観てきた舞台でも、自分が作った架空の舞台のためのものでも自由です。
どんな舞台が広がっているのか想像しながら、最後は参加者同士で少し見せあえると、きっと楽しい。

渡邊のり子

1988年生まれ。2011年～18年、劇団「百景社」の舞台美術として所属。およそ5cm四方の箱の中に身近な小物を組み合わせて小さな世界を表現した作品を制作し続ける。これまでの主な活動に「北アルプス国際芸術祭2020-2021」(長野県大町市・2021年)、「アートビーチくじはま」(久慈浜海水浴場・2019年)、「机の上の放浪日誌」(谷中トタン・2019年) など。

安住の地 ／『丁寧なくらし / 犬が死んだ、僕は父親になることにした』

【日時】

9/15(木) 15:00(丁寧)／ 16:00(犬僕)
9/16(金) 15:00(犬僕)／ 16:00(丁寧)
9/17(土) 13:00(犬僕)／ 17:00(丁寧)
9/18(日) 13:00(犬僕)／ 14:00(丁寧)

丁寧=「丁寧なくらし」
犬僕=「犬が死んだ、僕は父親になることにした」

【会場】

ワークピア日高(日高・江原)

作品紹介

京都を拠点に活動する劇団「安住の地」が、「身体」をテーマにした戯曲を上演する一人芝居企画をお届けします。
身体と生活をテーマにした戯曲『丁寧なくらし』(第20回AAF戯曲賞最終候補作品)と、動物の生と性を描いた『犬が死んだ、僕は父親になることにした』(令和3年北海道戯曲賞最終候補作品)を上演します。小説調で書かれた戯曲と、身体性の融合をぜひお楽しみください。

渡邊のり子

京都を拠点に活動している劇団／アーティストグループ。演劇を主軸に置きながら、音楽・映像・ファッションなど様々なカルチャーとコラボレーションした「ミクストメディア」な作品を発表し続けている。岡本昌也・私道かぴという所属作家二人の共同脚本・共同演出など独特の創作方法を用いた作品を得意としており、ジャンルはSF劇・コメディ・VR劇・音楽劇・無言劇など多岐に渡る。かながわ短編演劇賞2021グランプリ受賞。第12回せんがわ劇場演劇コンクールオーディエンス賞受賞。

インプロとジェンダー探究プロジェクト ／『ザ・ベクデルテスト』

【日時】

■上演
9/24(土) 10:00
9/25(日) 10:00

■ワークショップ
9/24(土) 13:00
9/25(日) 13:00

【会場】
ワークピア日高(日高・江原)

作品紹介
主人公は、三人の女性。彼女らの即興モノローグから生み出される、彼女らの豊かで複雑な“日常”を描く物語――。
「ザ・ベクデルテスト」とは、2016年に米国のカンパニー・BATS Improvで初演された、インプロ(即興演劇)におけるジェンダー・バイアスを扱う上演形式です。上演の終盤には、観客と演者がパフォーマンスをめぐって対話する時間が設けられていることも特徴の一つ。
午後には「ザ・ベクデルテスト」の一部分を体験するワークショップも開催。「ザ・ベクデルテスト」の体験を通して感じたことをもとに、日常生活や演劇の稽古場における「ジェンダー」についてともに考えていきます。

インプロとジェンダー探究プロジェクト
2021年6月結成のインプロ上演チーム。「インプロとジェンダー」をめぐるパフォーマンスを行い、そのパフォーマンスについて対話を重ねていくことに関心のあるインプロバイザー(即興演者)が集う。米国のインプロカンパニー「BATS Improv」のLisa Rowlandらによって考案された上演形式「The Bechdel Test」(ザ・ベクデルテスト)を継続的に学び、上演を重ねている。

ルサンチカ ／『GOOD WAR』

manami tanaka

【日時】

9/16(金) 18:00
9/17(土) 16:00
9/18(日) 11:30 / 16:00

【会場】

日高文化体育館(日高・江原)

作品紹介

本作は、私たちが「あの日」と聞いて想像する争いと日常で構成されています。私たちは生きている限り、これからもだれかと戦い続けなければなりません。現時点で戦っていなくても、生きている限りいつか争いに巻き込まれます。いずれ来る「その日」と、過去にあった「あの日」との向き合い方を鑑賞者と共に考えるべく、だれかの「あの日」が集積された記憶のモニュメントとして演劇作品を立ち上げます。

2021年～22年にかけて5つの会場で上演・展示されたものをリクリエイション。「GOOD WAR」など存在しないことを明らかにするために『GOOD WAR』を上演する。

ルサンチカ

河井朗が主宰、演出を行い舞台作品を製作するカンパニー。扱うテキストは既成戯曲、インタヴュー、記事など多岐にわたる。現代と過去に存在するモラルと、取材した当事者たちの事実と真実を織り交ぜ、舞台上で現実を再構築する。

劇団 短距離男道ミサイル ／『BNN』

【日時】

9/15(木) 19:00
9/16(金) 17:00
9/17(土) 20:00
9/18(日) 20:00

【会場】

神鍋高原キャンプ場(日高・神鍋)

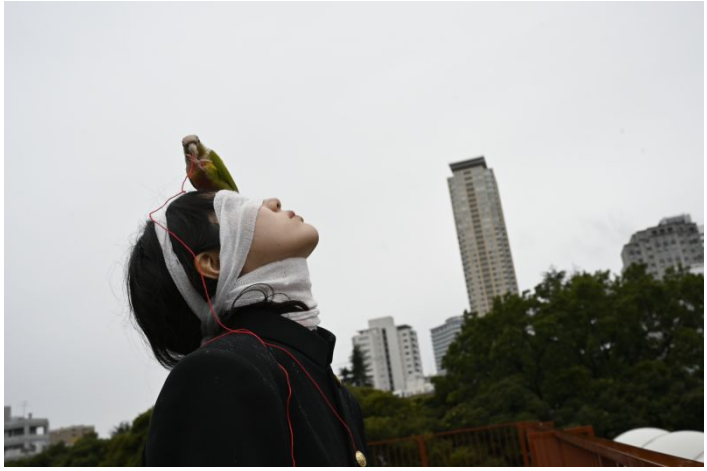
作品紹介

辛くも全滅を免れた「東北バナナン軍団」の臨時幕営では、男たちが飢えに苦しんでいた。
戦闘よりもむしろ飢餓で倒れていく仲間たちを救うべく、男は生き残りをかけた東北特産フルーツの生存戦略に身を投じていく…。

劇団 短距離男道ミサイル

2011年4月「仙台、東北、そして日本を笑顔にしたい」という想いの元、仙台の若手男性俳優(当時)によって結成。「CoRich舞台芸術まつり!2017春」グランプリ受賞。「若手演出家コンクール2017」では劇団作品が最優秀賞・観客賞をW受賞。劇場公演だけでなく、地域のアウトリーチ事業にも積極的に取り組む。
「 仙台、東北、日本、そして世界に活力を注入するために。我々は、服を脱ぎ続けます!!! 」

Stilllive ／『Stilllive Village：生のアリーナ』



【日時】

9/17(土) 17:30
9/18(日) 17:30
※9/16(金)にライブ配信予定

【会場】

神鍋高原キャンプ場(日高・神鍋)

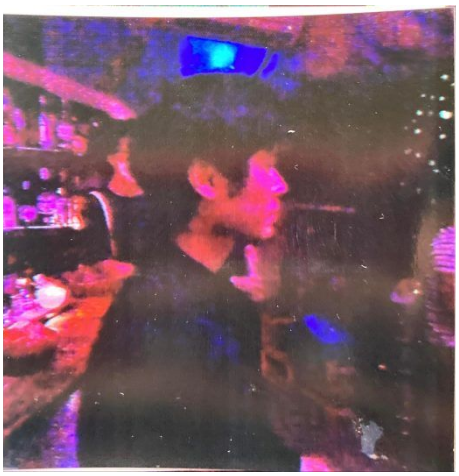
作品紹介

円形闘技場・演劇舞台を表す「アリーナ」に着目し、生そのものに限りなく近いパフォーマンスの場を実験する。最近、世界中の戦争、パンデミックを目の当たりにしていると、世の中がまるで人間が角逐する闘技場、または人間だけが主役である舞台に思われることがある。今作「生のアリーナ」では、あらゆる存在が尊重し合う場をコンセプトに、歓待、交感、治癒、祈り、対話によって生の力、共同体のありうべき姿を体現する。
会期中、実際にキャンプ場で共同生活をしながら、ファイヤサークルで焚き火を囲んで、身振り、励まし、呼びかけのような祭儀を繰り広げる。それは、Stilllivesが試みてきた自立共生の動きがキャンプ場という歴史空間に宿ることで、村を自然と形作る凝集の時間である。

Stilllive（スティルライブ）

パフォーマンスを表現の主軸に、共集の場を模索するプラットフォーム。アーティストの身体と観客の照応関係、有機的なマテリアルとデジタルメディアの相互参照、自立共生に基づく共同実験などを主題に、現代美術とパフォーミング・アーツを横断する活動を行う。

武本拓也 ／『ドキュメント・ヒア』



撮影：出野龍郎

【日時】

9/17(土) 16:30

【会場】

神鍋高原キャンプ場(日高・神鍋)

作品紹介

「そこにいる」という事への関心のもと、立つ・歩くなどの微細な動きのみでのパフォーマンス上演を行う武本拓也。2017年より、観客の有無に関わらず毎日この上演を行う事を開始し、現在まで継続している。「ドキュメント」は、日々の上演が蓄積した武本の身体を環境と状況に配置し、そこでどんな反応・選択・影響が起こるかを実演する試みである。
“芸術（art）というよりそれは証拠（document）と呼んだ方がよいだろう。どんなことでもそれにひっくるめられる可能性がある。だから大変に自由なものだ。Free Documentだ。その人が死を意識してその代替として信じたもの、事、心がこれからのたいへん大事な人類の意識遺産となる。それだ、それが次の芸術だ” - 松澤宥

武本拓也

1990年群馬県生まれ。東京都在住。
武蔵野美術大学 映像学科卒業。美学校 実作講座「演劇 似て非なるもの」修了。
城崎国際アートセンター 2022年度レジデンスアーティスト。
「そこにいる」という事への関心を出発点に、立つ・歩くなどの微細な動きを中心としたパフォーマンス上演を行う。
2017年より観客の有無に関わらずこの上演を毎日行う事を開始し、現在まで継続。
近年の作品に「山を見にきた」(DanceNewAir2020>21)、「正午に透きとおる」(TPAM2019フリンジ)など。

山田企画 ／『滝ヶ原芸術祭ツアー2022 in 豊岡』

【日時】

9/17(土) 10:00 / 15:00

9/18(日) 10:00 / 15:00

【会場】

神鍋高原体育館及びその周辺(日高・神鍋)

作品紹介

滝ヶ原芸術祭は2021年に石川県の石切場跡地で開催された芸術祭です。

今年は豊岡演劇祭フリンジに参加し、滝ヶ原芸術祭2021参加作品に新たな作品を加え3つの作品を兵庫県豊岡市、神鍋高原で上演します。

神鍋高原体育館で受付後、案内に従い3箇所(神鍋高原体育館、岩倉古墳、スキー場店舗(克っちゃん))を周りながら作品を鑑賞します。音楽、演劇、ダンス、書、花など様々な表現が、土地や空間と共鳴しながら繰り広げられる時間をお楽しみください。

山田企画

山田企画では、芸術は一見無関係に存在する人と人、人と世界を結びつける媒体として存在すると考えています。その結果生まれる思わぬ視点の広がりや関係性は、社会全体の創造性を向上させ、より良い社会を生み出す活力となると信じています。

山田企画の主催する事業は、アーティスト、観客、関係者共に各々が所属している文化・環境・価値観を再認識し、再構成していく機会を設けるものを中心としています。異なる価値観を認め合い、変動の激しい現代においても、企画を通して人・社会・環境につながりを生む事業を作り上げていく事を主旨としています。

坂口修一 ／ リーディング公演『お父さんのバックドロップ』

M-PAD2014・津あけぼの座スクエア
撮影：西岡真一

【日時】

9/15(木) 13:00
9/16(金) 13:00
9/17(土) 13:00

【会場】

出石明治館(出石)

作品紹介

悪役レスラーの父親と、そんな父がどうしても好きになれない息子が衝突を繰り返しながらも、やがて本当の絆を結ぶまでを描く、中島らもの名作短編小説を、演出・岩崎正裕、俳優・坂口修一によりリーディング公演として上演。
プロレス好きの教師が、国語の授業で中島らもの「お父さんのバックドロップ」を読み上げる。合間に思わずプロレス豆知識が飛び出し、授業はたびたび中断する。とある生徒との確執のあった教師は、朗読を通して何を伝えたかったのか…。
物語と冷静な距離を保ちつつ世界観を構築する朗読と、観客をうむを言わせず巻き込む演劇のパワー、その二つがかけ合わさった幅広い年齢の楽しめる作品です。

坂口修一

1975 年大阪生まれ。97年5月旗揚げから解散まで劇団「T∀NT RYTHM」の全公演に参加。愛嬌のある風貌と安定した演技で多くの舞台に招かれている関西屈指の実力派俳優。一人芝居、客演に加えて、二人芝居のユニットを組み、大阪だけでなく全国各地で公演を行っている。昨年は舞台『刀剣乱舞』や泊まれる演劇『藍色飯店』など、新しいジャンルの公演にも出演、活動の場を広げている。2022年より舞夢プロダクションに所属。

PUYEY ／『today in 出石』

【日時】

9/15(木) 15:00(プレ公演)
9/16(金) 15:00
9/17(土) 11:00 / 15:00
9/18(日) 11:00 / 15:00
9/19(月・祝) 11:00 / 15:00

【会場】

出石まちなか(出石)

作品紹介

今日、出石で何をしよう？
観客が作品中の「旅人」となる体験型まち歩き演劇。出石のとある場所に集まった「旅人」たちが、ト書き(演劇の台本などで登場人物への指示や状況の説明をする文章)に沿ってまちを歩くことで物語は動き出す。それぞれの「旅人」の視点から発見したまちの表情や体験を持ち寄り、その時その場限りの演劇作品を分かち合う。

2021年8月と10月に滞在を重ね、まちの皆さんの協力も得て、念願の上演。

PUYEY

高野桂子と五島真澄による福岡県を拠点に活動する演劇的ユニット。
上演する空間、観客の年齢や国籍にかかわらず、観たらちょっぴり生きやすくなる演劇的な作品を発表すべく活動している。
『PUYEY』の語源はタイ語で「わたげ」という意味の「PUY」に、エイ！と勢いをつけるため「EY」をつけた造語であり、「たんぽぽのわたげのように風に乗って各地へ飛んでいき、落ちたところで花を咲かせたい」という願いを込めた名である。

ハイドロブラスト／Hydroblast ／『最後の芸者たち』

photo by bozzo

【日時】

9/24(土) 17:00 / 19:00

9/25(日) 12:00

【会場】

城崎国際アートセンター スタジオ1(城崎)

作品紹介

芸者文化に着想を得たパフォーマンス作品。磨き上げられた踊りや唄で客人を楽しませる芸者は、職業としては日本各地から消えつつあると同時に、日本の接客や美意識を伝える存在と捉えられています。本作は、この一見あたりまえの「おもてなし」の演出を、俳優の身体を通し観察するこころみです。

きっかけは、城崎温泉の"最後の芸者"秀美さんとの出逢いでした。秀美さんによる芸事の稽古、現役芸者への取材などの調査を重ね、共同創作者に俳優の竹中香子、音楽に内橋和久を迎えます。文化の継承、エンターテインメント・システムとヒエラルキー、身体的性別と性自認といった事柄を考察します。

ハイドロブラスト／Hydroblast

演劇、パフォーマンス作品や、映像作品の企画制作をおこなうユニット。主宰は映画監督、俳優の太田信吾。

武本拓也／『いもりを見た』

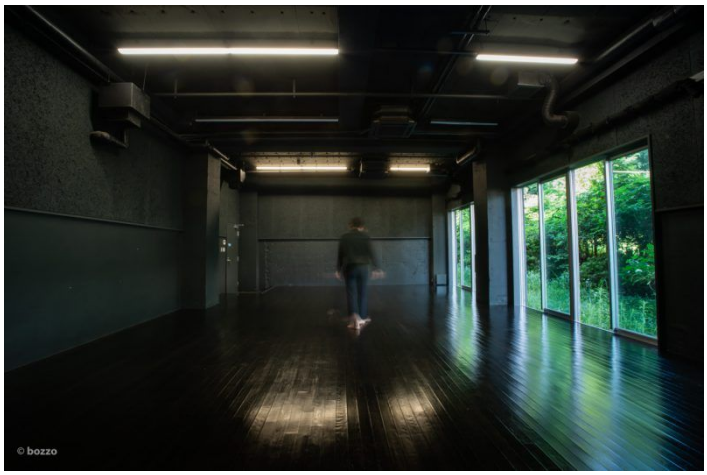


photo by bozzo

【日時】

9/15(木) 19:00
9/16(金) 18:00
9/18(日) 13:30 / 19:00
9/19(月・祝) 13:30 / 19:00

【会場】

城崎国際アートセンター スタジオ1(城崎)

作品紹介

「そこにいる」という関心を出発点に、立つ・歩くなどの微細な動きのみでのパフォーマンス上演を続けてきた武本拓也。
2017年からの5年間ほぼ毎日、観客の有無に関わらずこの上演を行い、日々の積み重ねから形を変えていく上演を試みてきた。
今年5月18日～7月4日の1ヶ月半、「これまでの5年間の言語化と、次の5年の為のリサーチ」を目的とし城崎国際アートセンターに滞在。平日夜はアートセンター内のスタジオ・週末は豊岡各所での上演を行い、思索と言語化、そして豊岡の人と場所との関係を積み重ねた。
今回は、滞在中上演が行われたスタジオ1にて新作上演を行う。
レジデンスの成果を踏まえた新たなテーマと共に、1ヶ月半の時間の積み重ねによって形作られたパフォーマンスを提示する。

武本拓也

1990年群馬県生まれ。東京都在住。
武蔵野美術大学 映像学科卒業。美学校 実作講座「演劇 似て非なるもの」修了。
城崎国際アートセンター 2022年度レジデンスアーティスト。
「そこにいる」という事への関心を出発点に、立つ・歩くなどの微細な動きを中心としたパフォーマンス上演を行う。
2017年より観客の有無に関わらずこの上演を毎日行う事を開始し、現在まで継続。
近年の作品に「山を見にきた」(DanceNewAir2020>21)、「正午に透きとおる」(TPAM2019フリンジ)など。

ポシロ舎 ／『物の間違った使い方』

【日時】

9/15(木) 10:00

9/16(金) 10:00

【会場】

9/15(木) 出石家老屋敷(出石)

9/16(金) 竹野温泉 北前館(竹野)

作品紹介

子どもの頃、物の間違った使い方をしていると、正しい使い方に直された経験はありませんか？

本企画は「正しい使い方」がある物を、「あえて間違って使ってみる」というワークショップです。実際に対象となる物に働きかけながら「物の間違った使い方（物の別の可能性）」を多面的に探っていきます。

「正しさ」から解き放たれ、想像力を働かせ、「物の間違った使い方」を見出し、世界を少し斜めに広げていきます。

ポシロ舎

「暮らしを面白がっていく」をコンセプトに、日常に潜むおもしろさを探っていく研究チーム。2022年5月に旗揚げ。現在、物との対話を促すワークショップや企画公演、素材映像の収集などを通して、研究活動を行っている。

野口竜平 ／『蛸みこし研究センター｜竹野浜支部』

©Shusuke Nishimatsu

【日時】

9/20(火) 研究所設立
　　ワークショップ1(17:00-18:30)
9/21(水) 公開制作(14:00−17:00)
　　ワークショップ2(17:00-18:30)
9/22(木) 公開制作(14:00-17:00)
　　ワークショップ3(17:00-18:00)
9/23(金・祝) 公開制作(14:00-17:00)
　　ワークショップ4(17:00-18:00)
9/24(土) 公開制作(14:00-17:00)
　　ワークショップ5(17:00-18:00)
9/25(日) イベント

【会場】

竹野浜海水浴場(竹野)

作品紹介

「蛸の脚にはその一本一本に独立した知性がある」という話から着想した、竹を素材としたふにゃふにゃした装置〈蛸みこし〉の公開制作と、それを用いたワークショップを行う「蛸みこし研究センター」が竹野浜に出現します。

夕日に染まる竹野浜に集まった人々が〈蛸みこし〉を担ぐと、演出家から奇妙な指示が出されます。次第に参加者は脚としての私と、蛸としての私たちの間でゆらぎながら「息を合わせて動く」「バラバラなまま一緒にいる」などを繰り返すことになり、その過程で変わり移ろう8人の関係は、蛸の踊りとなって顕れはじめます。

蛸の心身をモチーフに人間の集まりを再考する、楽しく不思議な1週間限定の蛸みこし研究センターです。

日坂春奈 ／『そうめんによる上演』

【日時】

9/23(金・祝) 11:00
9/24(土) 11:00
9/25(日) 11:00

【会場】

本と寝床、ひととまる(竹野)

作品紹介

但馬地方の食材を使ったそうめん料理のコースと、そうめん紙芝居の上演。

日坂春奈

俳優、そうめん料理研究家。ワワフラミンゴ、ままごと×象の鼻テラス『シアターゾウノハナ』、スイッチ 総研等に参加。2018年より、Instagram、Twitterで「#今日のそうめん」としてさまざまなそうめんメニューを更新。現在1000日を超える。不定期で「そうめん食堂」の開催、そうめんレシピの提供やワークショップ等、そうめん料理研究家としての活動も多岐にわたる。2020年、豊岡演劇祭フリンジにて「かみしばいや」として、そうめんを 題材にした作品と豊岡市内の子供達に描いてもらった絵を使って創作した作品 を上演した。 また、コロナの影響で食品提供を行うことが難しかったため、SNS上で「見るそうめん食堂 in 豊岡」と題し豊岡産の食材を使ったメニューを発表。中止となった2021年にもフリンジで、そうめん弁当を携えたかみしばい屋さんとして参加予定だった。

HANAICHI ／『おしえて但東！』

Hideki Kurita

【日時】

後日発表

【会場】

後日発表(但東)

作品紹介

8月から開始する但東でのフィールドワークをもとに、但東の土地や文化について詳しい方をお招きし、但東について深掘りするトークイベント。フィールドワークをする中で気になったキーワードや、これから但東でどのような創作ができるか、今後のフィールドワークやクリエーションについての内容も。

HANAICHI

土地と身体の関係性に焦点を当て、創作を行う。
早稲田大学文化構想学部卒業。在学中から、俳優として舞台や映像作品に出演。卒業後、劇場の演出部を経て、様々な表現分野の交差する場として「HANAICHI」を立ち上げる。各地の風土や暮らしから生まれる表現を探究し、国内外でのフィールドワークを重ね、音や手触り、その場にある様々な要素と身体のつながりを作品にする。

豊岡演劇祭2022フリンジ【Showcase】第1 クールラインナップ

【日時】

9/15(木) 18:00[A] / 20:00[B]
9/16(金) 18:00[C] / 20:00[D]
9/17(土) 11:00[A] / 13:00[D]
15:00[B] / 19:00[C]

【会場】

芸術文化観光専門職大学 小劇場・そぞろ座

【出演者】

[A]asamicro ―『Drowning in Breakfast』
漁業町で育ち、10代からHIPHOPを学ぶ。トリッキーな動きとHIPHOPで得たアイソレ、フィジカルが持ち味とする。朝ごはん・朝時間を作品モチーフとし、自伝と社会との距離を測りながらHIPHOPの基礎精神である「愛と平和と平等性」に問いを持ち創作。Macau CDE Springboard 招喚SAI Dnace Festival2021 solo First price 、踊る秋田ファイナリストなど。

[B]居留守 ―『不快なものに触れる』
山崎恭子の個人ユニット。個々の“からだ”が社会制度によってどのように “身体”化され、その“生”が方向づけられているのか、という問いを創作のテーマに置く。その作品は、言語表現・身体表現・インスタレーション的な舞台装置を組み合わせることで、行為選択のプロセスを、主体が置かれている環境との関係に描きだし、一連の筋からなる物語の上演とは一線を画す作品の上演を行っている。

[C]屋根裏ハイツ ―『ナイト・オン・アース(remix)』
2013年、仙台を拠点に設立。2018年より活動拠点を東京・横浜に移す。現在メンバーは中村大地、村岡佳奈、渡邉時生。少数のメンバーで話し合い、人が生き抜くために必要な“役立つ演劇”を創出することを目的とする。『再開』(2016)にて、民話における口伝とそのあり方を創作に取り入れたことを契機に、話を良く聞く身体をモデルとして舞台に置く会話劇を制作。最終的には家を建てたい。

[D]neji&co. ―『Cue』
ダンサー・振付家、捩子ぴじんが主宰するカンパニー。未来への展望を得るための振付として設立され、2020 年より京都を拠点に活動する。
捩子ぴじん ／ 2004 年まで舞踏カンパニー・大駱駝艦に所属。舞踏で培われた身体を元に、自身の体に微視的なアプローチをしたソロダンスや、ダンサーの体を物質的に扱った振付作品を発表する。THEATRE E9 KYOTOアソシエイトアーティスト。セゾン文化財団セゾン・フェロー。

豊岡演劇祭2022フリンジ【Showcase】第2クールラインナップ

【日付】

9/21(木) 18:00[E] / 20:00[F]
9/22(金) 18:00[G] / 20:00[H]
9/23(土) 11:00[F] / 13:00[E1
15:00[G] /17:00[H]

【会場】

芸術文化観光専門職大学 小劇場・そぞろ座

【出演者】

[E]演劇ユニットせのび ―『タウン』

2016年に結成、岩手県盛岡市を拠点に活動する演劇ユニット。劇場内外での演劇公演のほか、アートフェスイベントの主催なども行っている。「忘れられたものは初めからなかったことになってしまうのではないか」という問いに対して、様々なアプローチから創作を行っている。
主宰の村田青葉がコロナ禍に書き上げた『@Morioka(僕＝村田青葉の場合)』が、かながわ短編演劇アワード2021戯曲コンペティションにて大賞を受賞。

[F]劇団UZ ―『いしをつむ』

愛媛県松山市を拠点に、俳優・上松 知史、座付き作家・伊豆野 眸を中心に2020年7月設立。
伊豆野 眸 ／ 1987年生まれ。日本写真協会会員、日本演出者協会会員。劇団UZ演出・脚本担当。「サフランの子どもたち」「狼煙の豚」作・演出(2021年、シアターねこ、劇団UZ)。「縷々(ルル)としてなお -F・ヴェーデキント氏との邂逅 あるいは僅少の離別-」作・演出(2022年6月、シアターねこ、劇団UZ)。

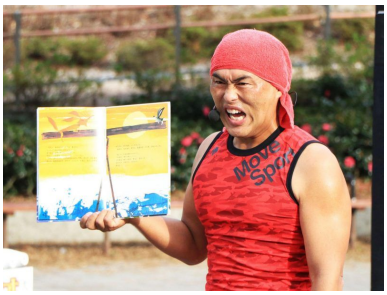
[G]久保田舞 ―『Jazz Age: one hundred years from』

幼少よりクラシックバレエを、埼玉県立芸術総合高校にて舞台芸術を学ぶ。大学在学中より作品制作を始め、これまで国内各地、海外で作品制作や上演。近年はオペラ・ミュージカル・ミュージックビデオ・CMへの出演や振付サポート、埼玉県川越市では身体表現の視点からアプローチしたプロジェクトにも取り組む。受賞歴は座・高円寺ダンスアワード、横浜ダンスコレクション奨励賞など。

[H]三輪亜希子 ―『三人姉妹』

ダンサー、博士(体育スポーツ学)。ダンス、スポーツ、ピアノ、油絵など多彩な経験知があり、舞台芸術からエンタメまで幅広く活動。研究テーマは「ダンスの知覚・クリエイティビティ」。ファミリーコンサート振付・出演(指揮:宮川彬良、原田慶太楼)、ソロ作品『IN』(2018年韓国SCF、2019年北京YDMファイナリスト)。尚美学園大学舞台表現学科専任講師。エクストラジェンダー系ダンサーのKENVOSEと死生観への独自の哲学をもつ浅川奏瑛がクリエーションチームに。

豊岡演劇祭2022フリンジ【Street】ラインナップ



【日付及び会場】

9/17(土) – 9/19(月・祝) 10:00-22:00
城崎エリア
・城崎温泉駅前
・駅通り公園
・木屋町小路
・四所神社

9/17(土) – 9/19(月・祝) 11:30-14:00
出石エリア
・登城橋河川公園
・出石家老屋敷前
・イロドリマーケット会場内

9/17(土) – 9/18(日) 18:00-22:00
江原エリア
・江原駅前イベント広場
＊ナイトマーケットと同時開催

9/23(金・祝) – 9/25(日) 18:00-22:00
豊岡エリア
・市役所本庁舎前市民広場
＊ナイトマーケットと同時開催
※9/24(土)のみ17:30-

【出演者】

城崎エリア
ぱわぁ / 長岡岳大&めぐみ梨華 / ゼロコ / 渡邊 翼 / さくら組 / 鈴木仁 / 渡辺あきら / ファントム / タカパーチ
白昼夢 / ヂバドロ・アノ / ケチャップリンたび彦 / 九里ヶ崎雪彦 / アストロノーツ / 音姫金魚

江原・出石エリア
和風曲芸師 トルマリ / 八幡雄士 / Yamato / 豊来家幸輝

豊岡エリア
オマールえび / 太平洋/ カキツバターズ☆ / Co.SCOoPP / URARA×タカハシカナコ
架空カンパニー あしもと / KC TRIBE / カパーフラオカイリマレーアーピキ